

# 13 クシャダス (トルコ)

古代の都市を見るために



## ●アジアとヨーロッパの発祥地

クシャダスはトルコの西海岸、エーゲ海を臨むリゾート都市である。普通ヨーロッパとアジアはイスタンブールのボスポラス海峡で境とされる。これに従うとクシャダスはアジアにある。

元来、アジアとは古代ローマの属州のひとつで、今のトルコ西部を指す地方名であった<sup>\*1</sup>。その州都はエフェソス。そして、そのエフェソスから現代において最も近い都市がクシャダスなのである。だからクシャダスはもともとの意味において、アジアと呼ぶにまことにふさわしい場所に位置する。

一方、クシャダス周辺のトルコ西海岸はイオニア地方と呼ばれる。ヨーロッパ建築における古典主義は、ドリス、イオニア、コリントのいずれかのオーダー（円柱のかたちとそれがつくる比例体系）が見られることだと西洋建築史は教える<sup>\*2</sup>。このことに照らすと、クシャダスはヨーロッパ建築の発祥地に位置するとも言える<sup>\*3</sup>。

アジアとヨーロッパ、それらがまだ地方の名称であったころ、それらの概念が生まれたところが、この地方にほかならない。クシャダスはそうした時代を辿る遺跡への拠点であるとともに、エーゲ海のバカンスを愉しみ、おいしい食事によってアジアとヨーロッパの融合を知ることができる街なのである。

## ●海を失ったミレトス

クシャダスから南に車で1時間、地質が乾いた岩山から低地に移ってくると、一面の綿花畑が見えてくる。そのなかにミレトスがある。

ミレトスは古代ギリシャの一時期、最も繁栄した都市国家（ポリス）であった。ここはギリシャ哲学が始まった場所と言われ、前600年頃にタレス、アナクシマン드로ス、アナクシメネスらの哲学者が生まれた。建築関係で有名なのはヒッポダモスで、都市計画の創始者と言われる。彼はミレトスをはじめとした植民都市の計画に関わり、直交する街路のなかにアゴラ、公共施設などを配置して、ギリシャ植民都市のモデルをつくった。そこでは

象徴性よりも機能性、合理性が重視され、このことはギリシャ哲学の理念にも通じる<sup>\*4</sup>。

都市計画の教科書には、このヒッポダモスのミレトスが載っている。それを見知って現地に行くと、「こんなはずではない」という景観に出会う。海がないのだ。ミレトスは3方を海で囲まれ、港が街の中心にあり、その地理的条件によって繁栄を謳歌したはずなのだ。しかし今は円形劇場の頂部から眺めても海面は見えない。実は河川による土砂の堆積とプレートによる土地の隆起によって、海岸線が10kmも動いてしまったのである<sup>\*5</sup>。たしかに、かつて港があったあたりまで行くと、地面がズブズブとしている。しかしかつての姿は想像しにくい。やはり地形の変化の影響はとてつもなく大きいのだ。

## ●エフェソスの都市デザイン

次はクシャダスから北に向かう。車で15分程で巨大な円形劇場が見えてくる。24000人を収容したというエフェソスの遺構である。

エフェソスは古代ローマの遺跡のなかでも最大級の都市のひとつで、現在でも道路や建築物がかなり残っており、その全容を実感することができる。エフェソスもまた交易で栄えたが、海退によって今は海がない。

地形には高低差があり、街にはアゴラが2つある。アゴラは古代ギリシャの中央広場で、それなしで

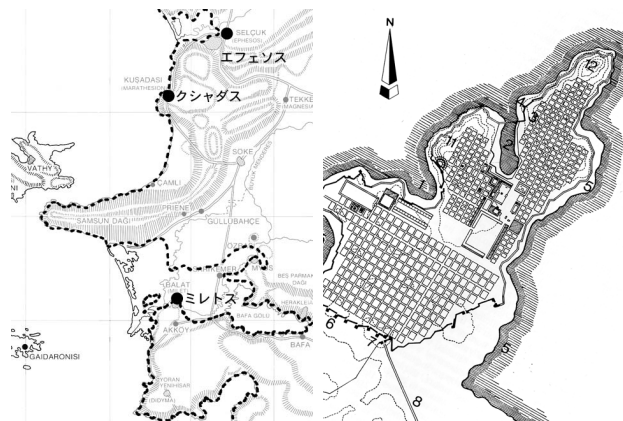


図1 トルコ西岸 古代の海岸線 (破線) (文献①より作成)

図2 ミレトス ヒッポダモス方式のグリッドプラン (文献①)

\*1 さらに遡れば、アジアとヨーロッパの語源は、フェニキア（今のレバノン付近）の「日の出る地方」、「日の沈む地方」にあるという。  
 \*2 古典主義のオーダーは古代ギリシャが確立し、古代ローマがヨーロッパ全体に広めた。それは特定の地域を超えた、建築を表現する共通の様式とされた。したがって、古典主義はインターナショナルな考え方である。  
 \*3 ドリスはイオニアよりさらに南、トルコ南西海岸、ボドルム（古代のハリカルナッソス）付近の地方名。コリントはギリシャのペロポネソス半島の都市名。なお、イオニア海というと、ペロポネソス半島のさらに西、シチリアと挟まれた海域を指し、イオニア地方とは離れている。  
 \*4 クシャダスからミレトスに行く途中のプリエネもまた、ヒッポダモス式の街路パターンの都市であるが、こちらは急な斜面につくられているので、激しい起伏がある。

は都市を考えられないような核となる場所である。夏の地中海の日射しは焦げるように熱いが、アゴラの列柱廊の影に入れば乾いた風が吹き抜ける。そして片隅の泉で涼をとる。古代ギリシャやローマの、広場を中心とした街のつくりかたに納得する瞬間である。

エフェソスでは「上のアゴラ」と「下のアゴラ」を坂道のクレテス通りが見つないでいる。大理石で舗装されたこの通りを下りきった突きあたり、すなわち「下のアゴラ」のとなりに、2層のファサードをもつきわめて保存状態のよい優美な遺構が見える。古代ローマ期につくられた図書館である。坂の正面にモニュメンタルな施設を配置し、背後には海が見えていたはずである。この景観は、そのワンカットだけでエフェソスという街の地形、産業、財力を語り、まことに秀逸な都市デザインといえよう。

### ●クシャダスの場所性を現す建築

クシャダスはミレトスやエフェソスで港が使えなくなっただけの時代の港町で、トルコ、ヴェネチア、ジェノヴァ、ギリシャなど、地中海の覇権を争う国々によって支配されてきた。街の名は沖に浮かぶ島の名で「鳩の島」の意味だという。この島にはジェノヴァが築いた要塞が残っている。

クシャダスには地中海クルーズの客船が入港し、海岸沿いのホテルにはヨーロッパからのリゾート



図3 エフェソス クレテス通りの景観、正面に図書館が見える 地中海の太陽は強い光と影を織りなす

\*5 文献①p.9および文献②p.26

\*6 イスラム教でモスクの横に建てられる尖塔。もともとは1日5回の礼拝の呼びかけ（アザーン）のために設けられた。なおビザンチンの様式を受け継いでいるのはモスクである。

### ●参考文献

- ①SUZAN BAYHAN, *PRIENE/MILETUS/DIDYMA*, KESKIN COLOR KARTPOSTALCILIK-ISTANBUL, 2002
- ②齋木俊男『続・ギリシア歴史の旅』恒文社,1999
- ③『都市計画図集』彰国社,1999

客が投宿する。しかし、この街の魅力は旧市街にある。きつい坂道に沿って建てられ、石灰で白く塗られた民家は、地中海都市の共通性を示している。だが2階の床を木造の持ち送りで張り出した様式や、モスクのミナレット\*6がそびえる光景はトルコならではのものである。

この旧市街の中に、民家を改造してつくられた小さなホテルがある。いくつかの宿泊棟となった建物が高低差をうまく活かして中庭を囲んでおり、中庭の木々越しに街と海が見える。周辺の民家と同じ様式を保存しつつ、きわめて上質で快適な空間をつくりだしている。街のコンテクストと古い建物をどのように建築として活かすかということの好例である。街の歴史と場所性はこのように建築として現れるのである。

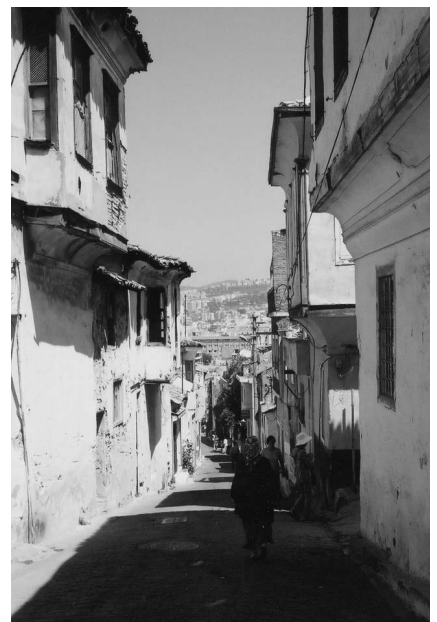


図4 クシャダスの街路 坂道と2階を張り出した民家



図5 クシャダスの民家を改造したホテル 宿泊棟から中庭を見る